

平成 26 年度大学満足度調査結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的・内容

大学生活で経験した教育（教育環境を含む）についての評価を把握し、教育改革等に役立てるための基礎資料とするもの

(2) 調査対象・時期

新 2 年生以上は原則、年度当初の学部別ガイダンスに実施

前年度卒業生は原則、卒業式当日に実施

(3) 調査方法

無記名アンケート用紙への記入

(4) 回収率

全学 75.6%（医学部 76.9%、薬学部 64.1%、経済学部 81.0%、人文社会学部 63.5%、芸術工学部 85.6%、看護学部 95.4%）

(5) 前回調査項目からの変更

- ・「授業の予習・復習を 1 日あたり平均何時間していますか？（過去 1 年）」は、別途実施する「授業についてのアンケート」の授業外学習を問う設問で代替することにより削除
- ・「Q3：所属学部・学科」のうち「人文社会学部・人間科学科」を「人文社会学部・心理教育学科・人間科学科」へ、「芸術工学部・都市環境デザイン学科」及び「芸術工学部・建築都市デザイン学科」を「芸術工学部・建築都市デザイン学科・都市環境デザイン学科」に変更

2 調査結果の集計方法について

回答をポイントに換算し平均点をとる方法、すなわち、大学満足度調査版 GPA で調査結果を出しています。肯定的か否定的かを明確にするよう「強くそう思う」、「そう思う」、「それほど思わない」、「まったく思わない」の 4 段階で回答させ、

強くそう思う = +3

そう思う = +1

それほど思わない = -1

まったく思わない = -3

とポイントをつけました。したがって、評価点は -3 ~ +3 の間の点数となり、次のような意味を持つこととなります。

+3	全学生が完全肯定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。
+1.2	+3 が 20%、+1 が 70%、-1 が 10%、-3 が 0% の場合が相当し、極めて肯定的意見が多いことを意味する。
+0.6	+3 が 20%、+1 が 50%、-1 が 20%、-3 が 10% の場合が相当し、かなり肯定的意見

	が多いことを意味する。
0	肯定的意見と否定的意見が拮抗することを意味する。
-0.6	+0.6の逆であり、かなり否定的意見が多いことを意味する。
-1.2	+1.2の逆であり、極めて否定的意見が多いことを意味する。
-3	全学生が完全否定したことを意味し、現実にはあり得ないと思われる。

3 調査結果の信ぴょう性

3ヶ年の経年変化を見たとき、若干の上下はあるものの、学部毎に値が安定的に推移しています。調査対象の学生が入れ替わっても調査結果の変化が少ないことは、学部毎の体質ないし体制の変化が少なく、学生による評価が固定していることを意味し、その調査結果は信用に足るものであると考えられます。

4 評価点に対する総合評価

- ① 評価点が+1.2を超える（極めて満足度の高い）項目については、現時点では特に問題はないことになるが、今後も高い評価を受け続けるようにすべきと思われます。
- ② 評価点が+0.6を超える（かなり満足度の高い）項目については、緊急度は低いものの、さらに満足度を高めるべく努めるべきであろうと考えられます。
- ③ 評価点が0～0.6である（不満足というほどではないが満足度が低い）項目については、満足度を高める努力が必要と考えられます。
- ④ 評価点がマイナスである項目は、早急な対策が必要と考えられます。
- ⑤ 評価点が-0.6以下である項目は、特に緊急に対応すべきであると考えられます。

上述の判断を踏まえて、評価点を次のように総合評価しています。

評 価 点	意 味	総合評価
+1.2を超える	極めて満足度が高い	S
+0.6を超え+1.2以下	かなり満足度が高い	A
0を超え+0.6以下	不満足というほどではないが満足度が低い	B
0以下で-0.6まで	満足している者よりも不満足な者の方が多い	C
-0.6以下	かなり満足度が低い	D

5 項目別学部別評価結果

凡例 A ⇒ 26年度 A、25年度 A、24年度 A 評価、

ABC ⇒ 26年度 A、25年度 B、24年度 C 評価

☆：昨年 C 以下の評価から、今年 B 以上の評価となった項目

★：昨年 B 以上の評価から、今年 C 以下の評価となった項目

網掛け部分：今年 C または D 評価である項目

	医学部	薬学部	経済学部	人文社会学部	芸術工学部	看護学部
Q 5 現在の自分について						
①名古屋市立大学に入ってよかった	A	A	A	S	S	ASS
②大学生活は自分にあっている	A	A	A	ASS	A	A
③大学は自分の期待どおりであった	B	B	B	B	BAB	B
Q 6 大学での目標について						
①自分の進みたい職業分野がある	S	S	A	B	ASA	S
②大学は自分の将来のためになると思う	S	S	A	AAS	S	S
③大学で学んだことで将来を決めたい	S	S	B	B	A	S
④大学にきた理由を答えられる	S	A	B	BBA	A	S
Q 7 授業への自分の取り組みについて						
①授業に集中できている	B	B	B	B	B	B
②勉強する意欲がわく	BBA	B	BBC	B	BBA	B
③いい成績をとりたいと思う	BBA	A	A	A	A	A
Q 8 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について						
①やりがいのある授業があって充実している *	B	B	B	B	BA	B
②カリキュラム（科目構成・学年配当など）は適切である	★CBC	BBC	B	BAA	B	B
③教養教育で英語を学んで良かった *	★CB	C	B	A	B	C
④教養教育で多様な価値観にふれることができ良かった*	B	B	A	AS	BA	B

	医学部	薬学部	経済学部	人文社会学部	芸術工学部	看護学部
Q 9 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む専門教育）について						
①知的刺激を感じる授業に出会った	A	A	A	S	SAS	A
②カリキュラム（科目構成・学年配当など）は適切である	B	B	B	A	AAB	B
③授業で学んだことは自分のキャリア形成に役立つ	A	A	B	BAA	A	S
④主体的に学び考える授業に出会った *	BA	BA	B	A	A	A
Q 1 0 授業への教員の取り組みについて						
①理解度を確認しながら授業を進めている （H24「理解度を確認しながら授業を進める先生が多い」）	C	BBC	BBC	BBC	B	BBC
②教え方は理解しやすい （H24「教え方がうまい先生が多い」）	BBC	BBC	BBC	ABB	BBC	BBC
③学生の声に耳を傾けてくれる （H24「自分の成長を気にしてくれる先生がいる」）	BBC	AAC	BBC	BAB	B	ABC
④相談しやすい （H24「相談をしやすい先生が多い」）	C	BBC	C	☆BCB	B	BBC
⑤授業に熱意をもっている （H24「授業に熱意をもった先生が多い」）	B	AAB	B	A	AAB	AAB
Q 1 1 授業の全体的な印象について						
①全体として、授業を楽しむことができた	B	B	B	A	A	B
②いろいろな授業から知的刺激をうけた	AAB	A	ABB	A	A	A
③全体として、これまでのところ大学での授業の経験には満足している	B	AAB	B	A	A	A
Q 1 2 事務室・図書館や課外活動について						
①大学職員の対応は満足できる	C	BAB	C	BAA	★CBB	CCB
②教室などの学習施設は充実している	C	AAC	B	B	BAA	B
③図書館は充実している	☆BCC	AAB	BBA	B	A	B
④食堂・喫茶等の施設は充実している	D	CCD	D	D	DCC	DCC
⑤課外活動のための施設は充実している	DCC	CCD	C	C	★CBB	C

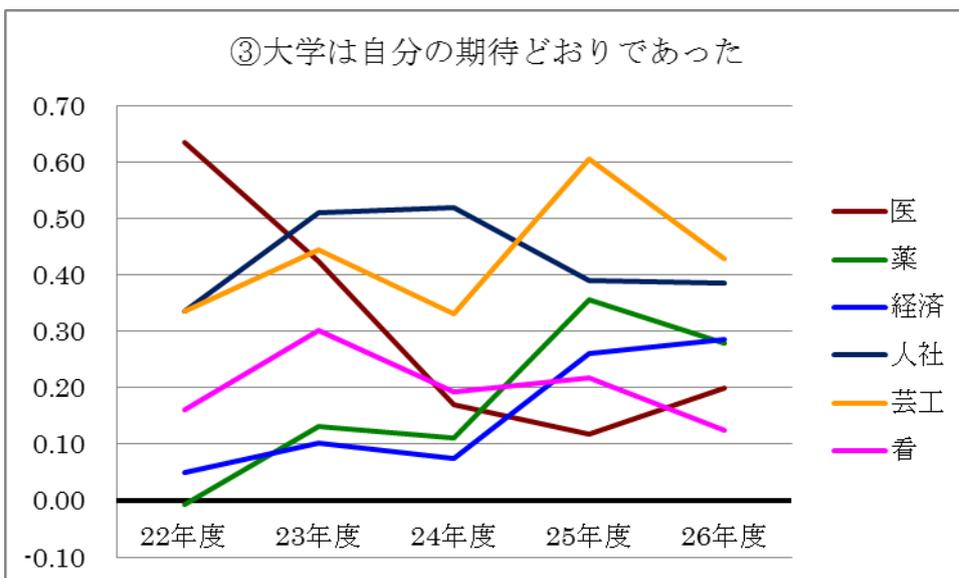
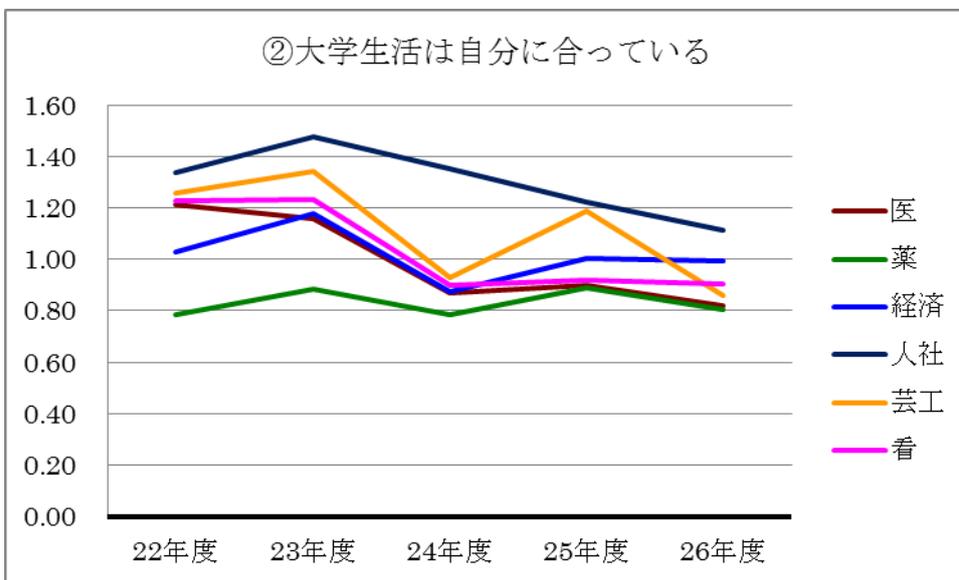
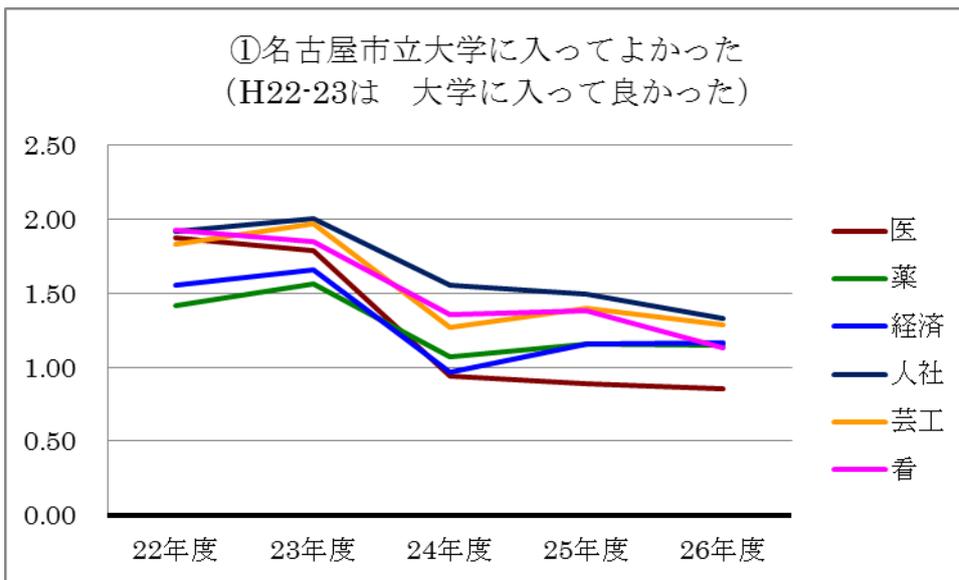
		医	薬	経	人	芸	看
質問項目数		31	31	31	31	31	31
今年CまたはD（網掛け部分）の項目数		8	3	4	2	3	4
内訳	昨年もCまたはD（網掛け部分）であった項目数	6	3	4	2	1	4
	昨年B以上から今年新たにC以下になった項目数（★の数）	2				2	
昨年C以下であったがB以上となった項目数（☆の数）		1			1		

* 25 年度に新設の項目

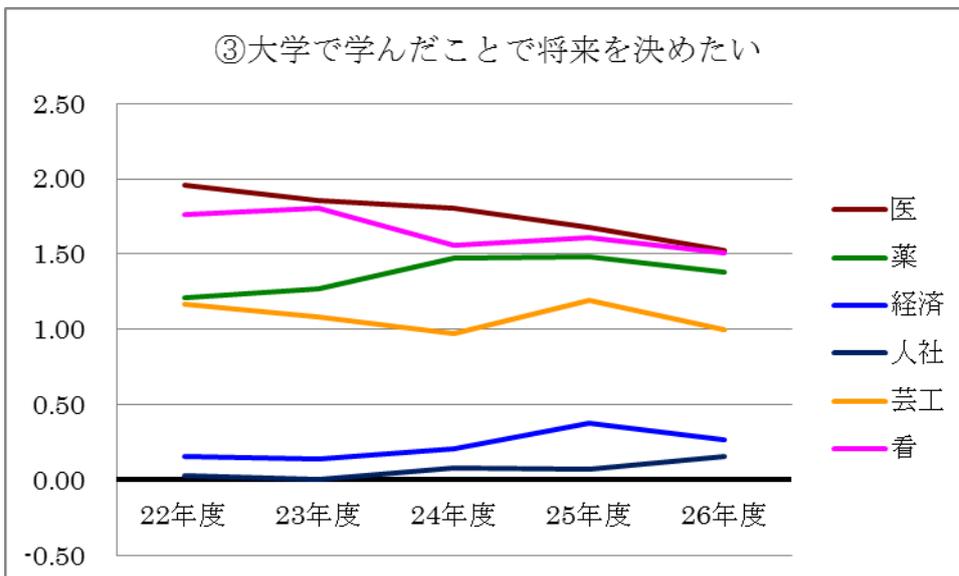
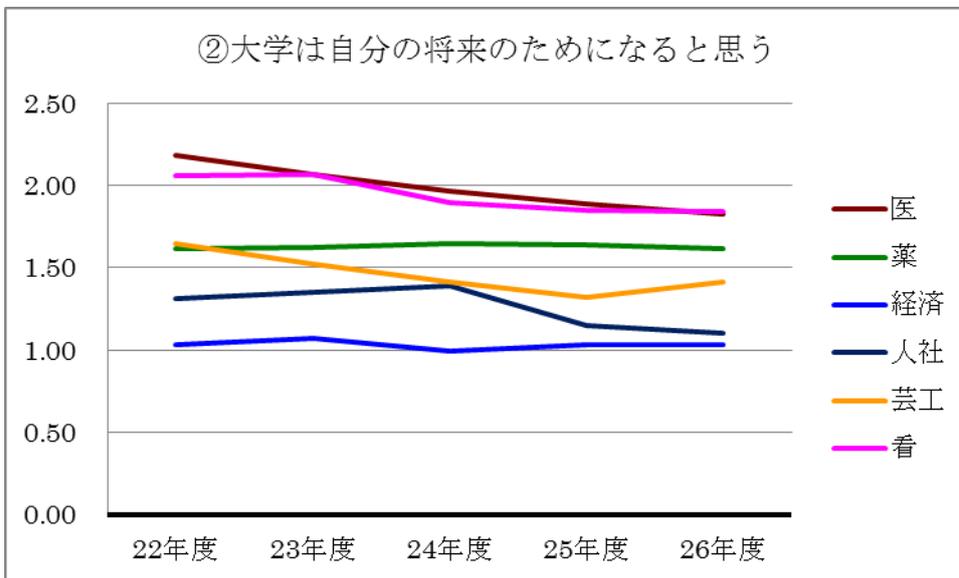
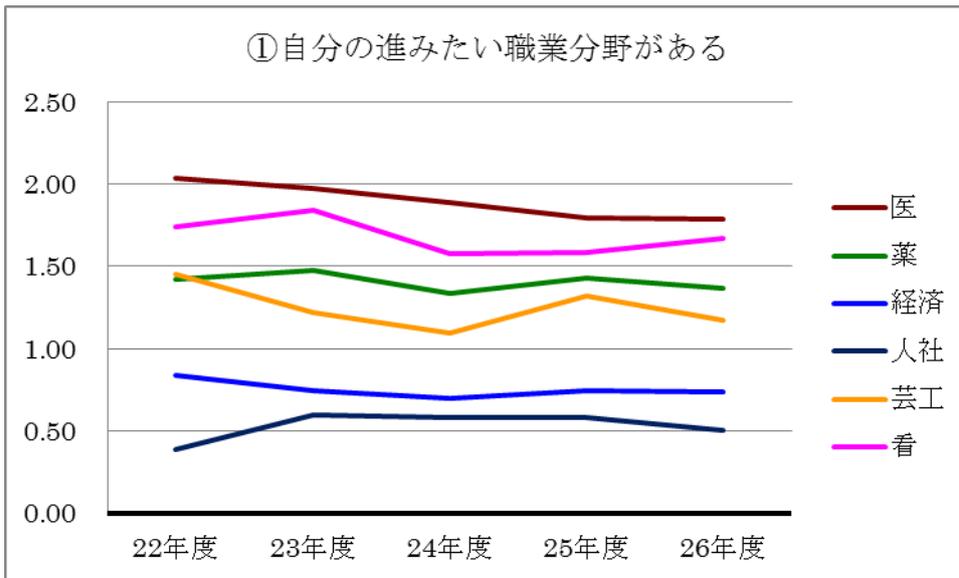
6 項目毎のコメント

- ① 「Q5 現在の自分について」の「①名古屋市立大学に入ってよかった」「②大学生活は自分に合っている」、「Q6 大学での目標について」の「②大学は自分の将来のためになると思う」の3項目は過去3年間全学部で総合評価がSないしAで、全体として本学に入学して学んでいることに満足していると考えられる。
- ② 「Q7 授業への自分の取り組みについて」の3項目は、すべての学部でB評価以上となった。
- ③ 「Q8 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について」の「②カリキュラム(科目構成・学年配当など)は適切である」の項目では医学部がマイナス評価となった。「③教養教育で英語を学んで良かった」の項目では、医学部、薬学部と看護学部でマイナス評価（C評価）であり、これら3学部の学生は教養教育の英語の授業について意義を感じていないように思われる。
- ④ 「Q9 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む専門教育）について」の4項目は、すべての学部でプラス評価でありA評価が多数見られる。とりわけ「①知的刺激を感じる授業に出会った」については3年間全学部で総合評価がSないしAとなった。
- ⑤ 「Q10 授業への教員の取り組み」は、「①理解度を確認しながら授業を進めている」では医学部がマイナスC評価、「④相談しやすい」では医学部と経済学部がマイナス評価となったが、全体としてはおおむねB評価が多い。
- ⑥ 「Q11 授業の全体的な印象について」の3項目は、すべての学部でプラス評価であり、A評価が多数みられる。
- ⑦ 「Q12 事務室・図書館や課外活動について」の「③図書館は充実している」は全学部B評価以上であるが、「①大学職員の対応は満足できる」では4学部がC評価となるとともに「④食堂・喫茶等の施設は充実している」「⑤課外活動のための施設は充実している」の2項目は全学部においてC、D評価となっている。

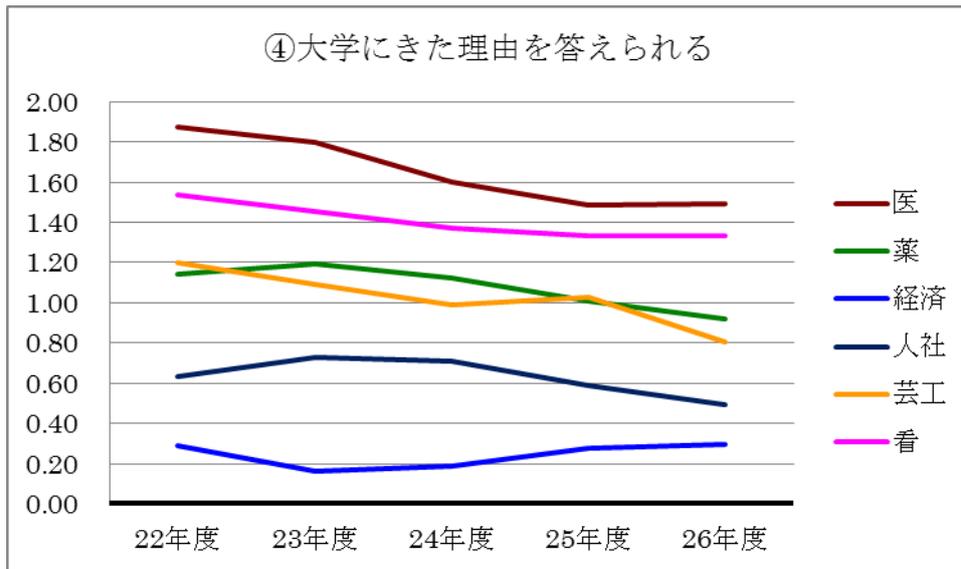
Q5 現在の自分について



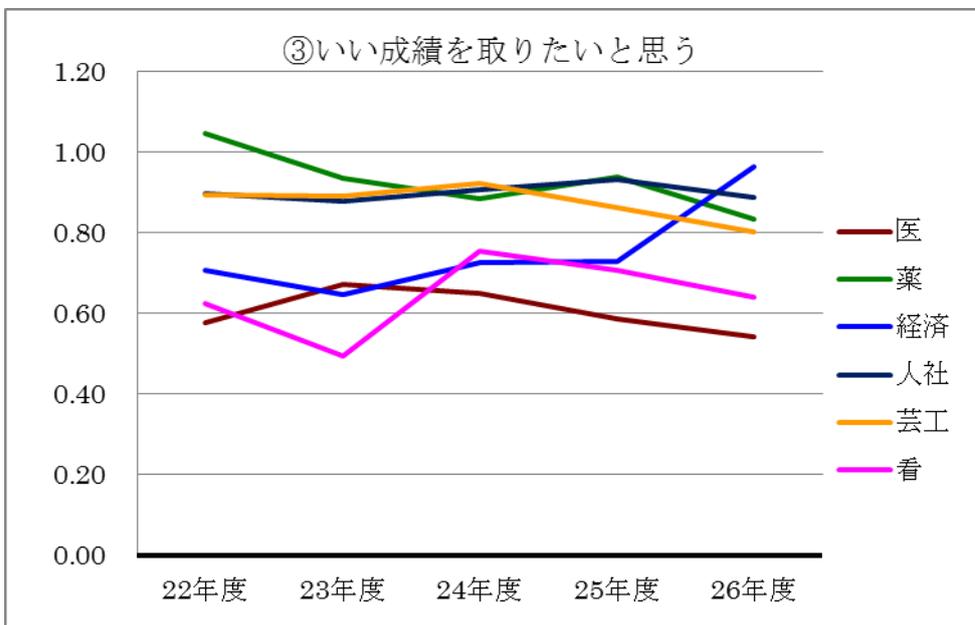
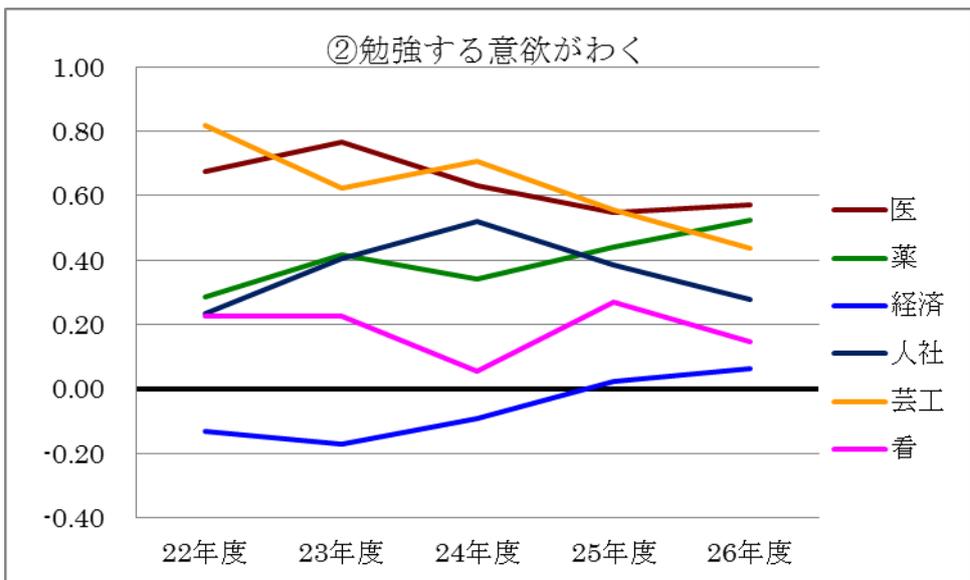
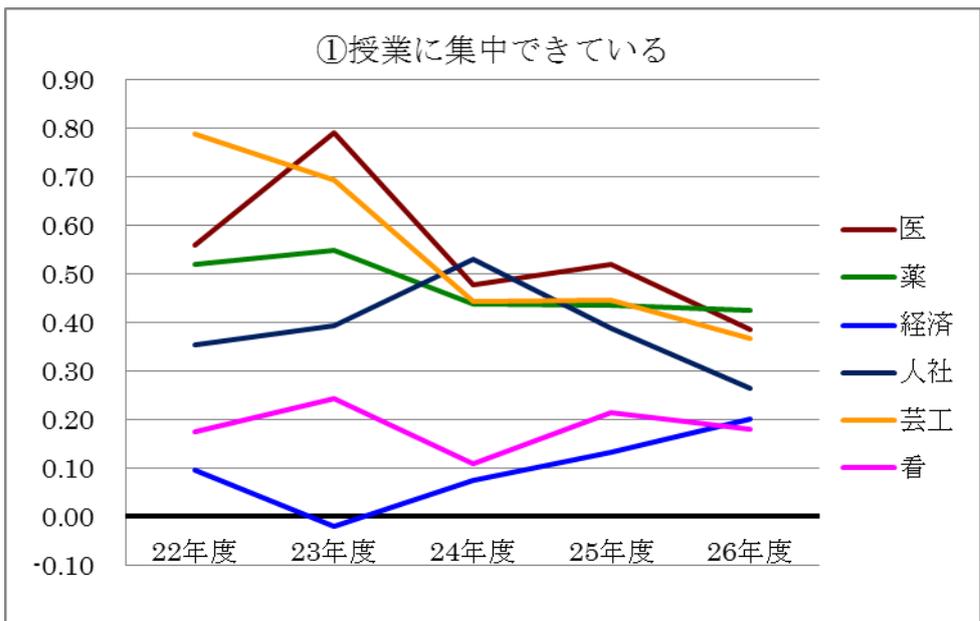
Q 6 大学での目標について－1



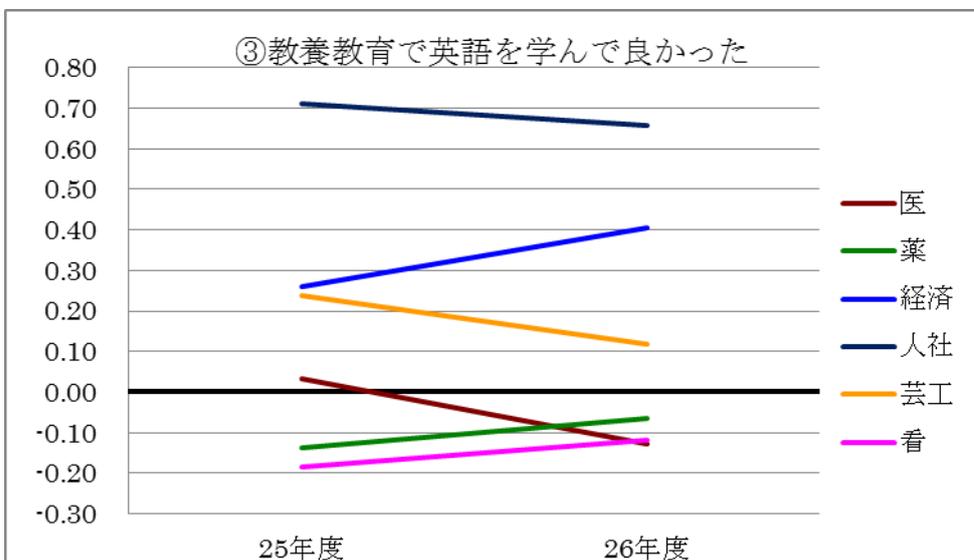
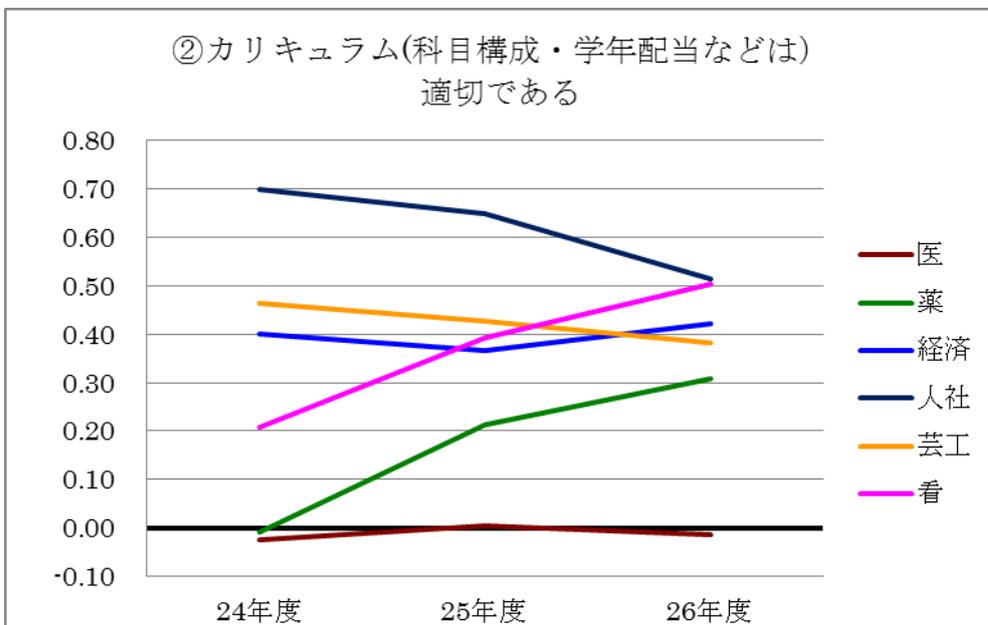
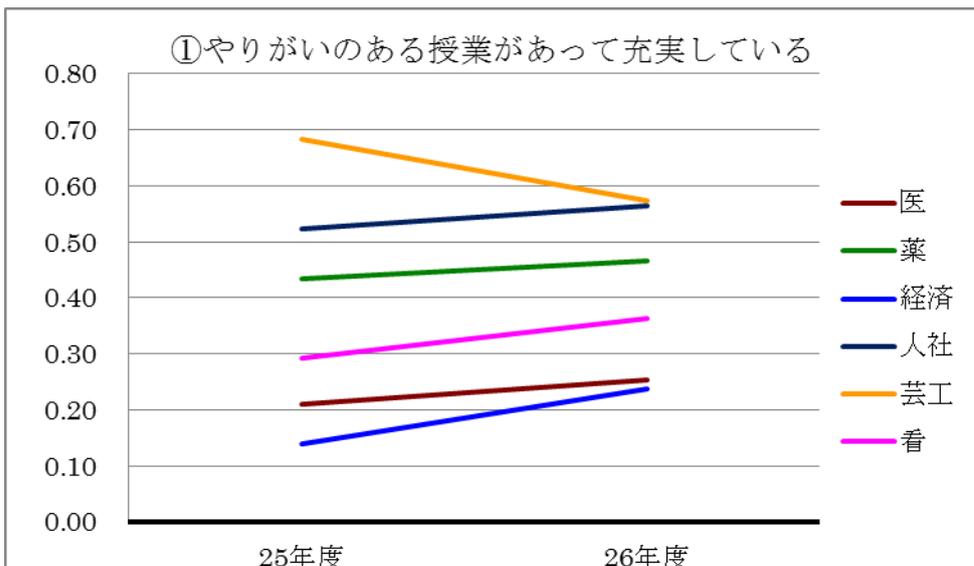
Q 6 大学での目標について- 2



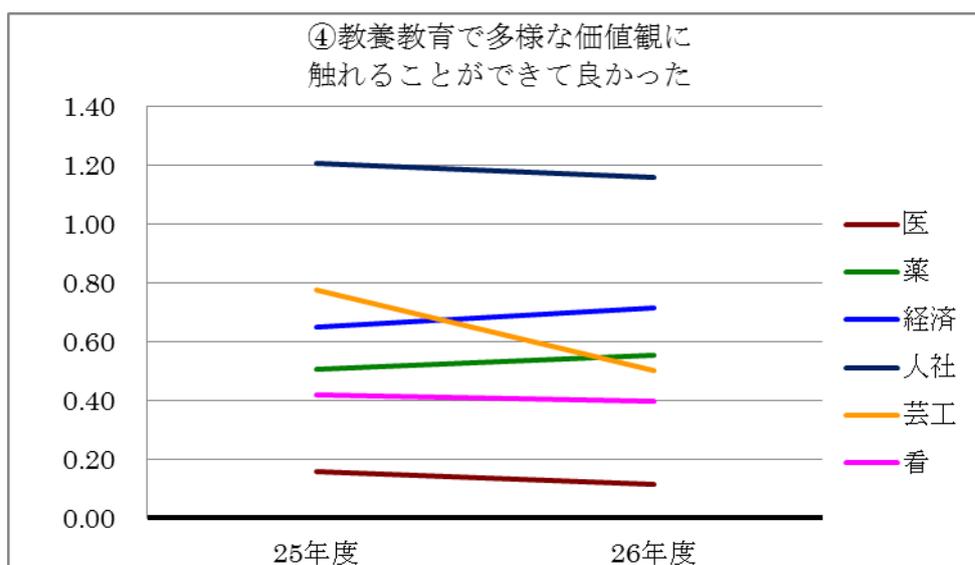
Q 7 授業への自分の取り組みについて



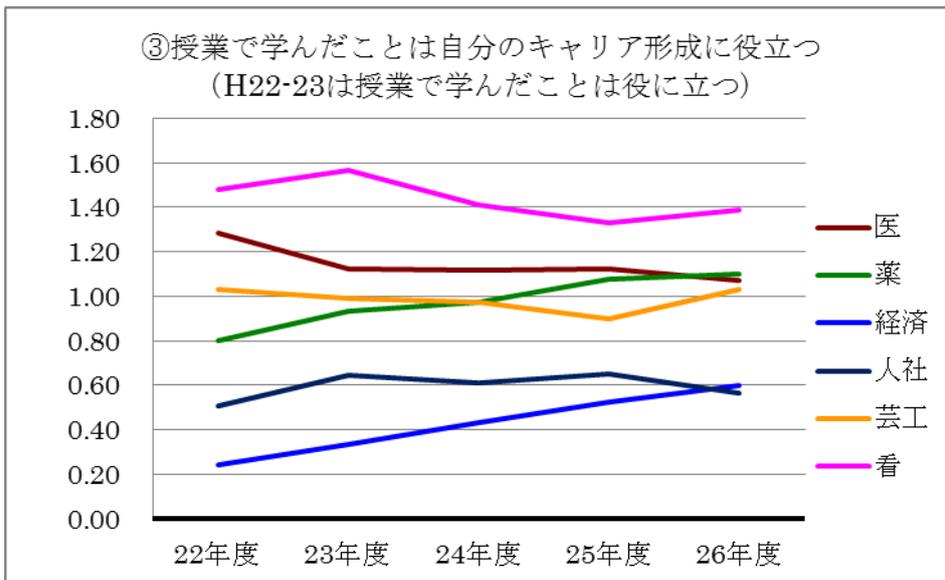
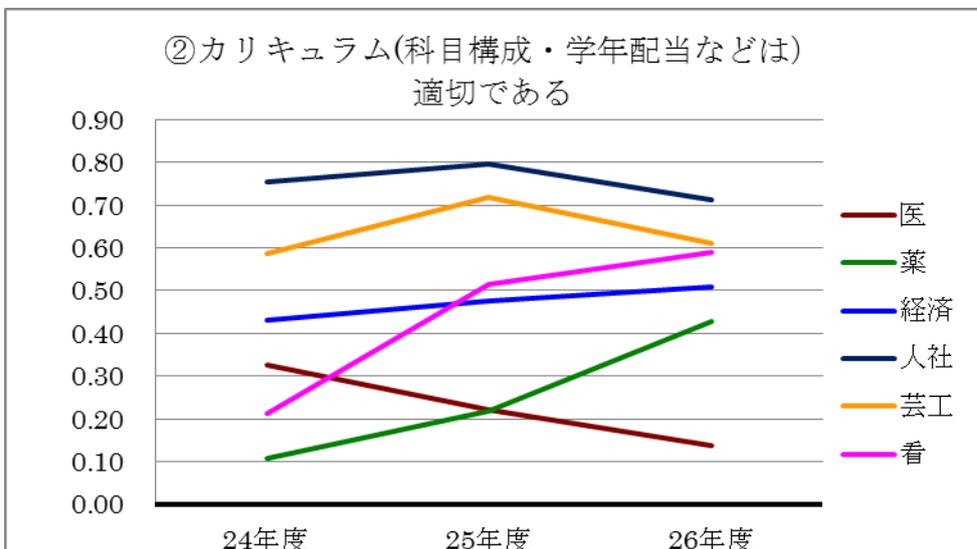
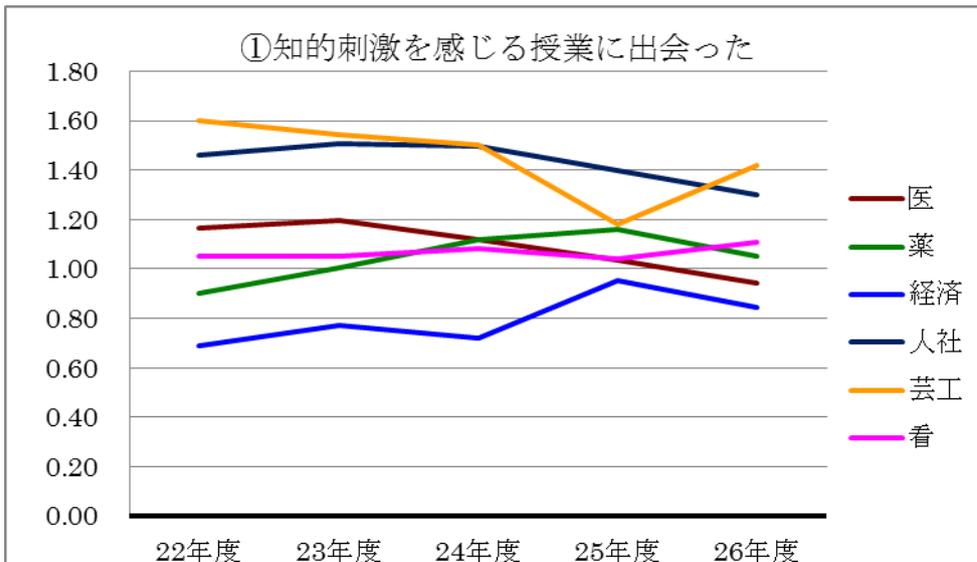
Q 8 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について-1



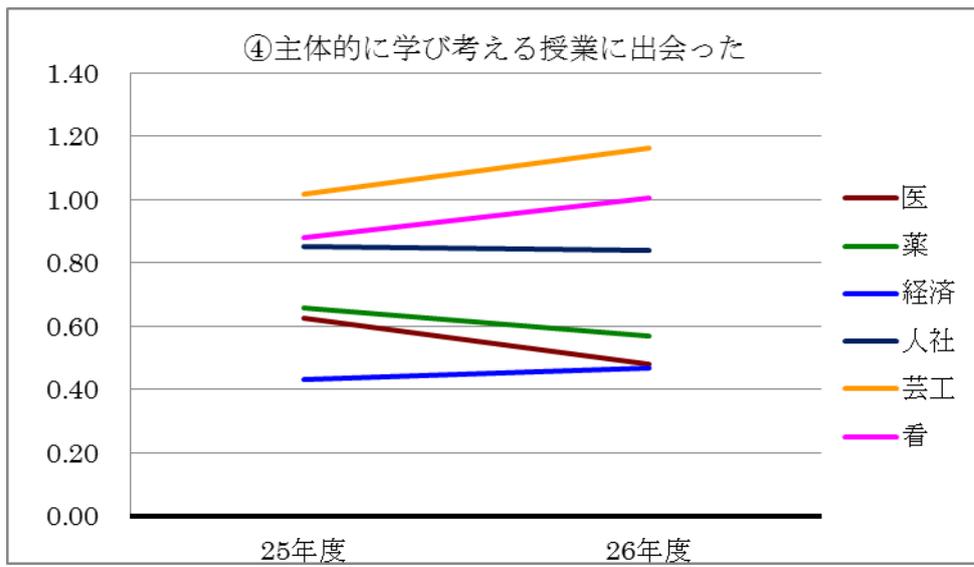
Q 8 これまで受けてきた授業内容（教養教育）について－2



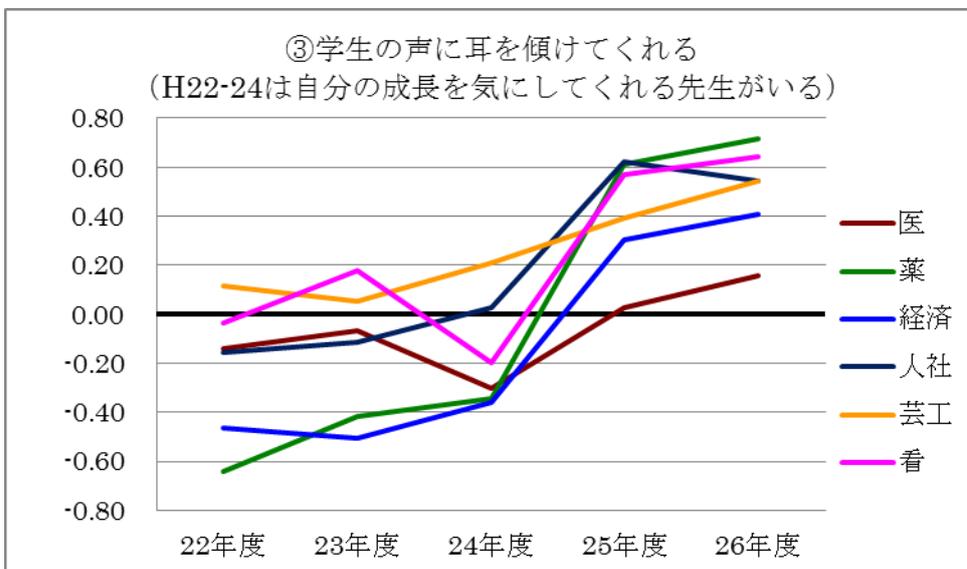
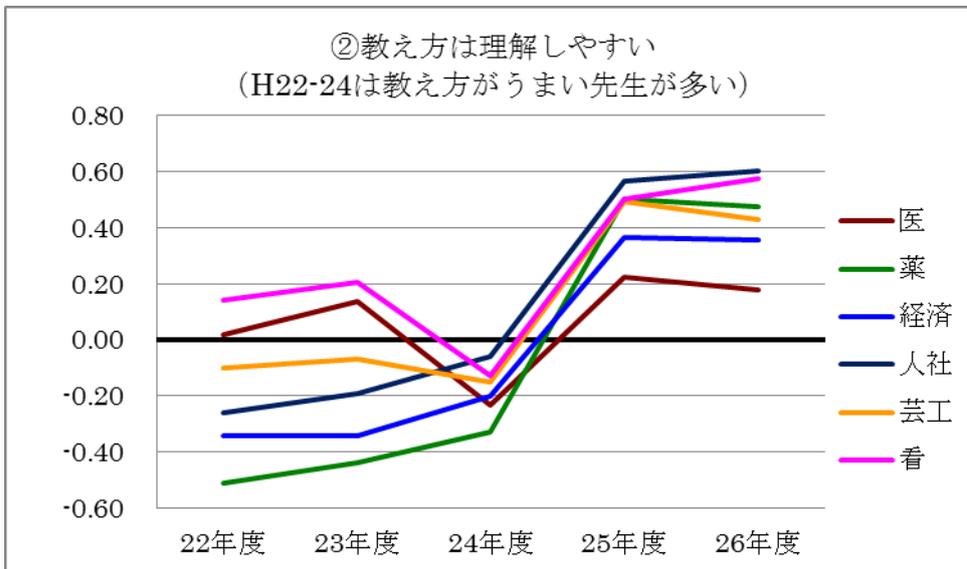
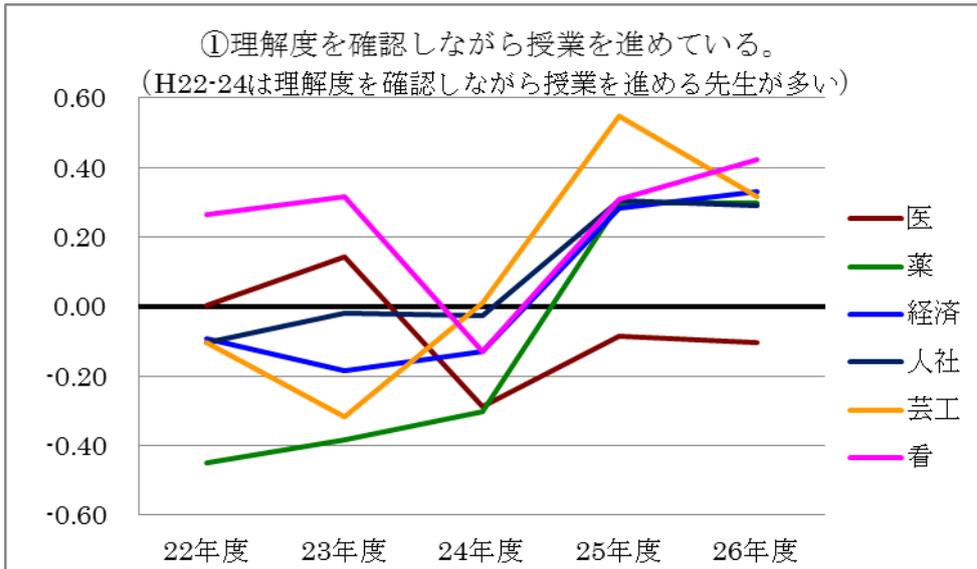
Q 9 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む専門教育）について－ 1



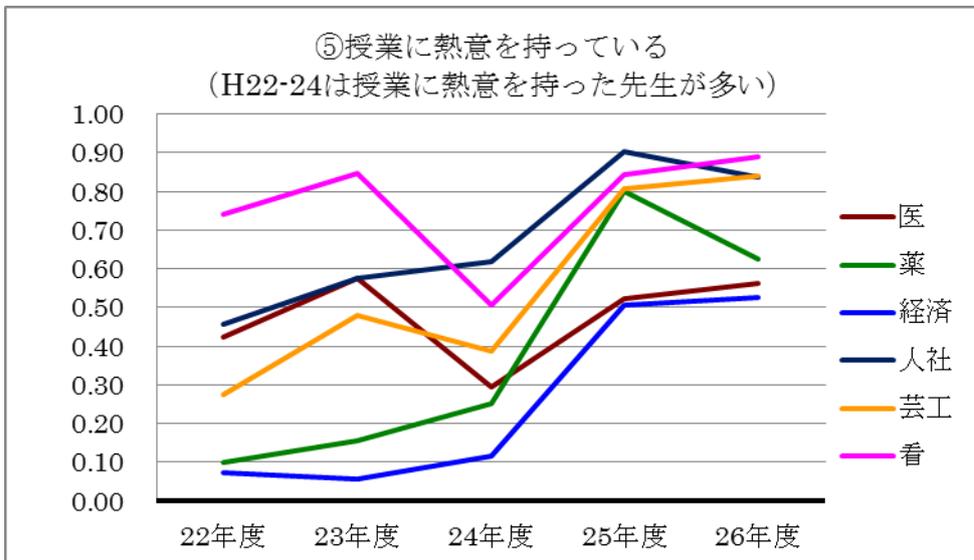
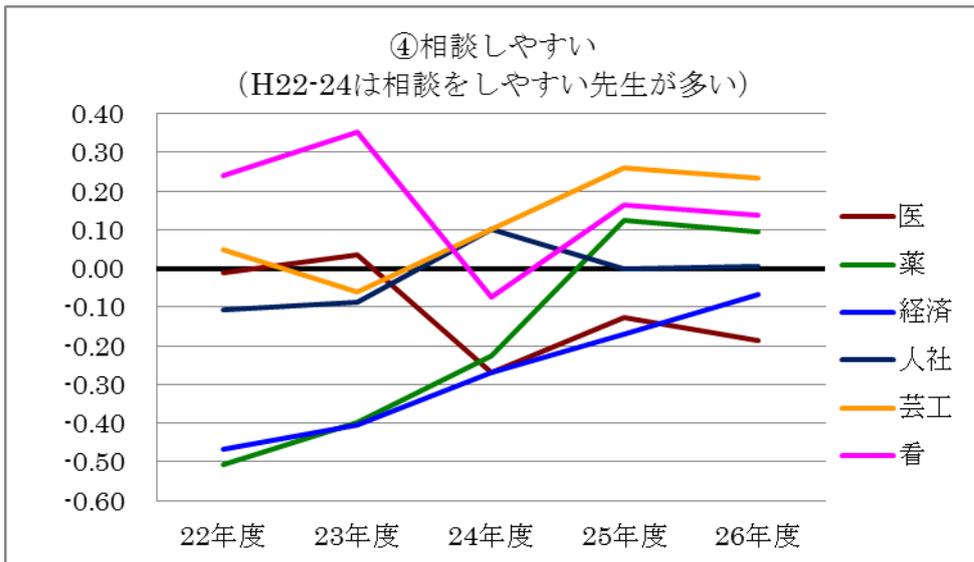
Q 9 これまで受けてきた授業内容（演習、実習等を含む専門教育）について－ 2



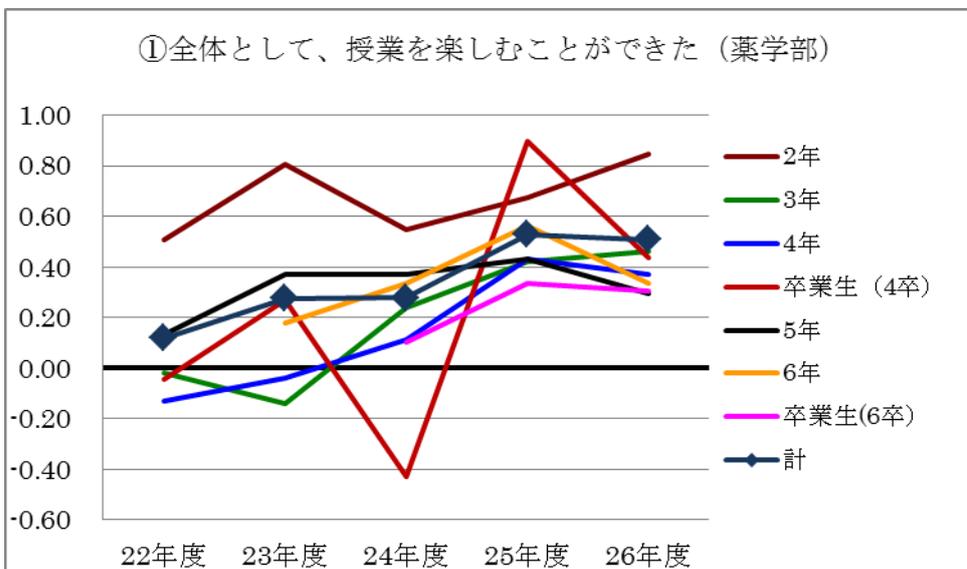
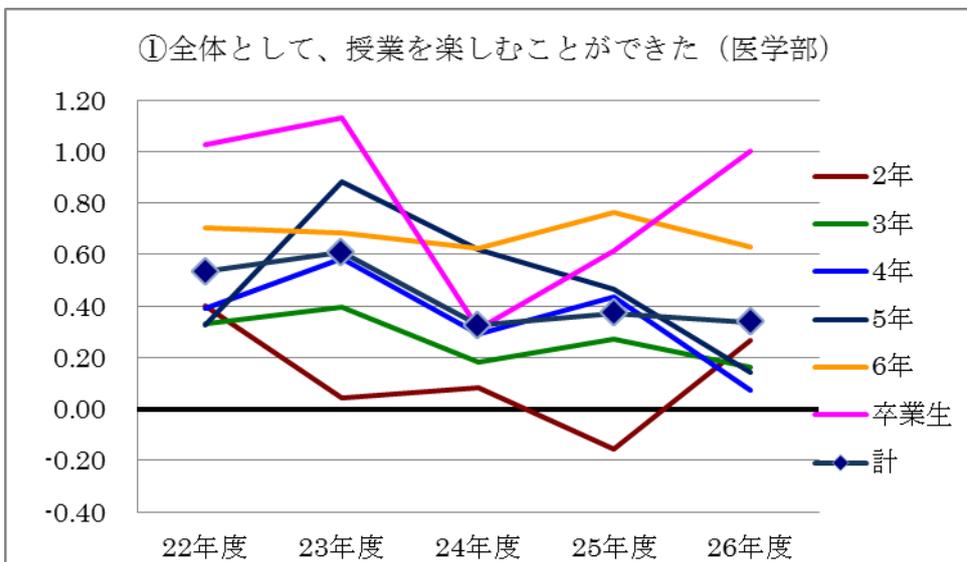
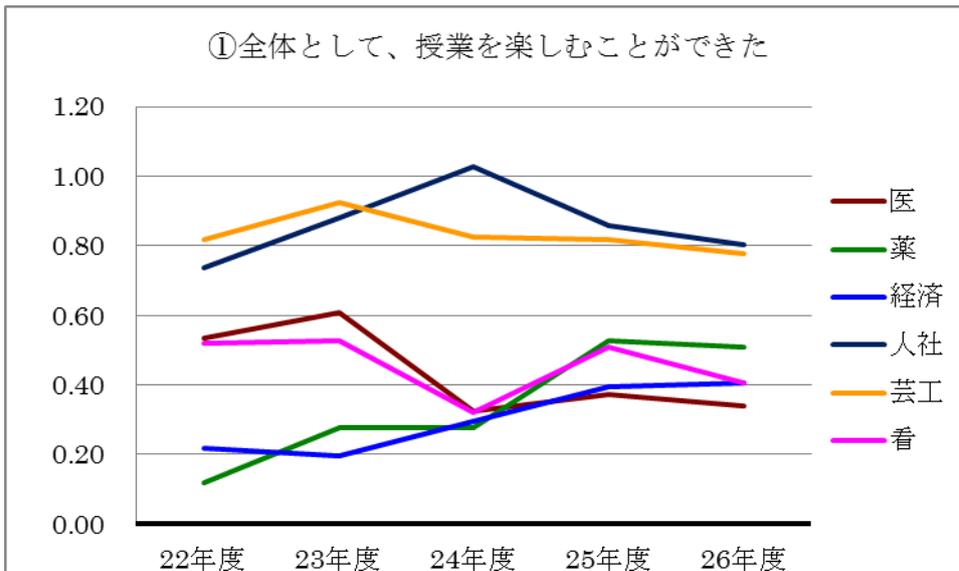
Q10 授業への教師の取り組みについて－1



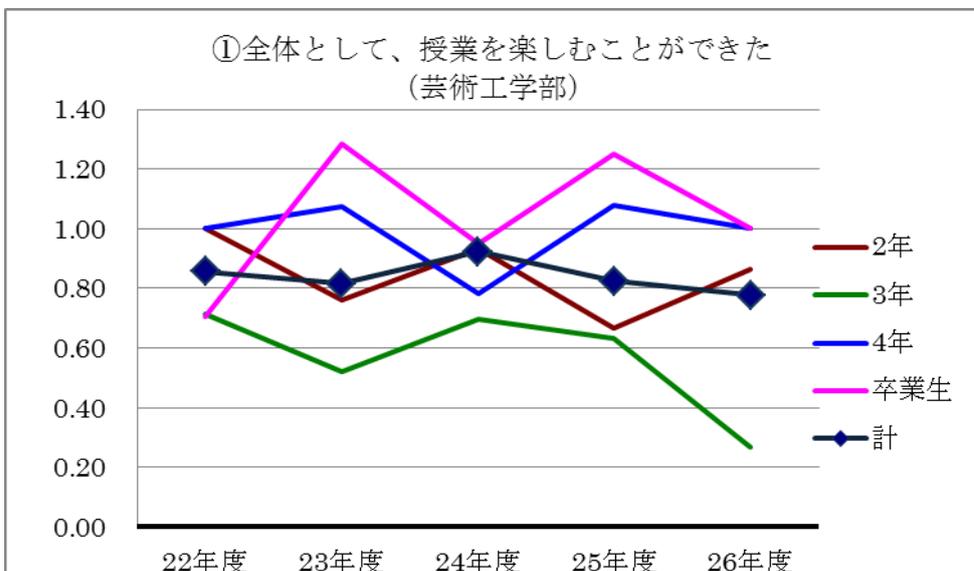
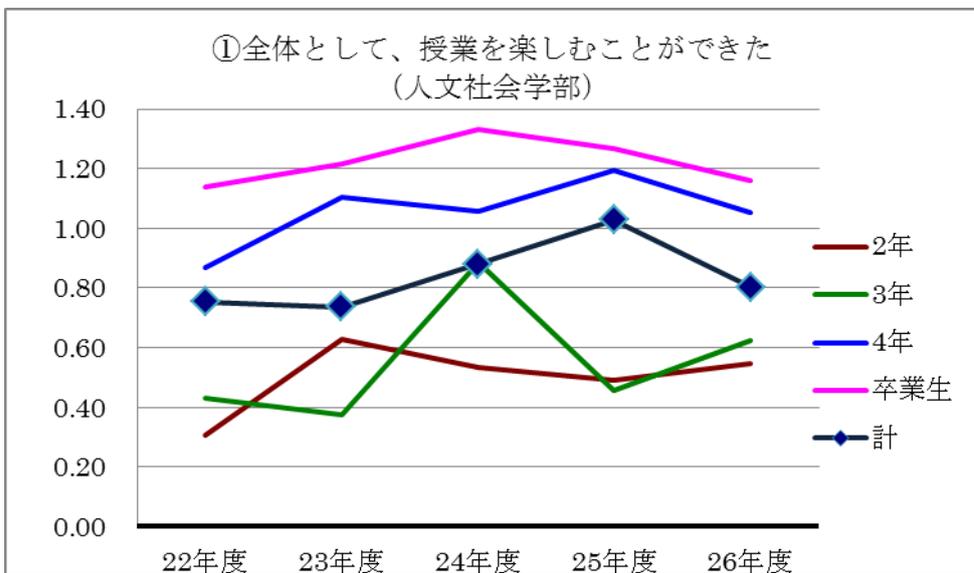
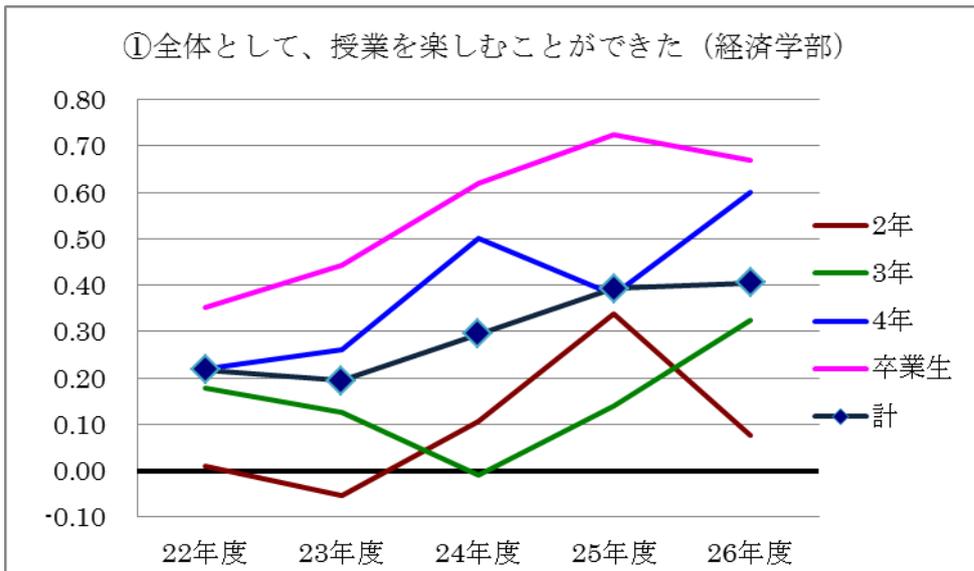
Q10 授業への教師の取り組みについて-2



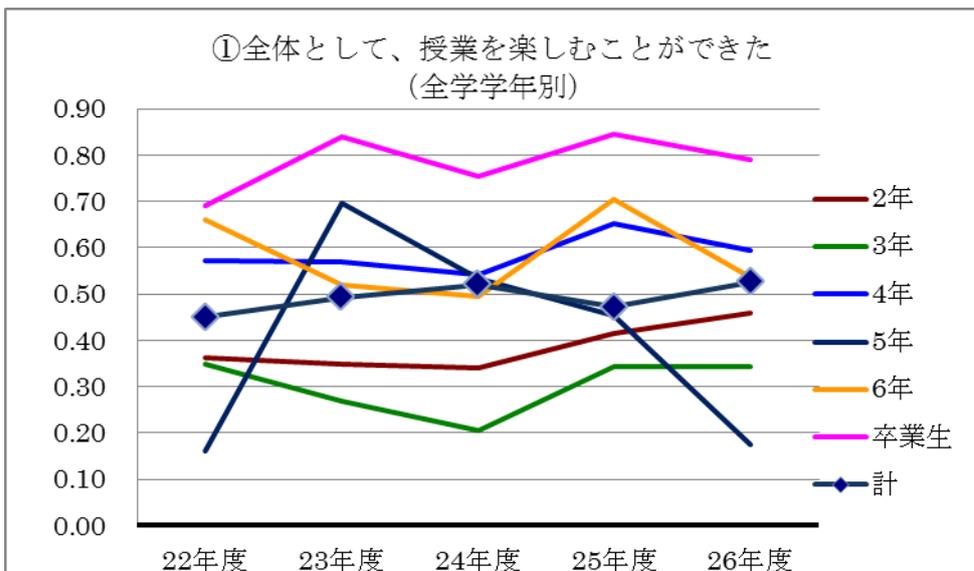
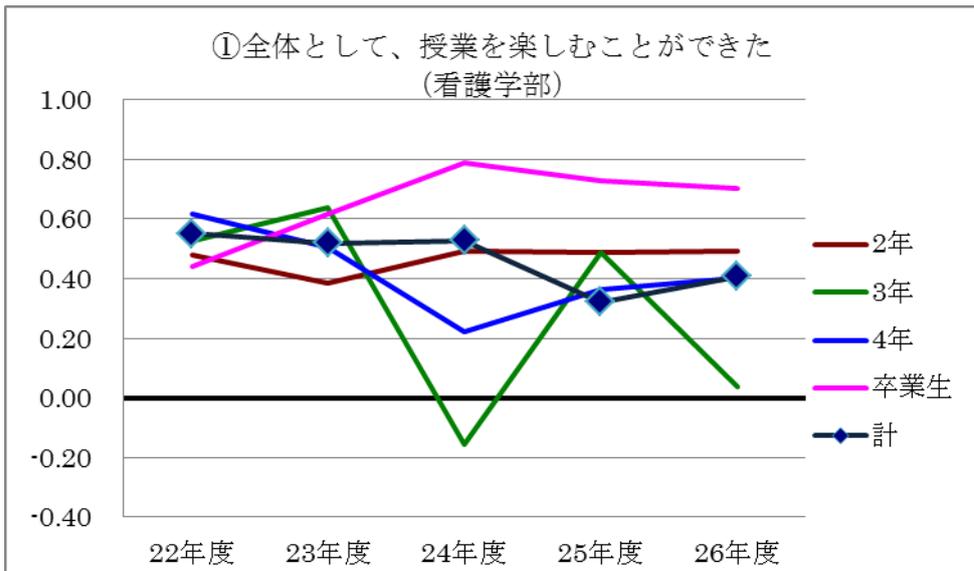
Q 1 1 授業の全体的な印象について－1 ①全体として授業を楽しむことができた



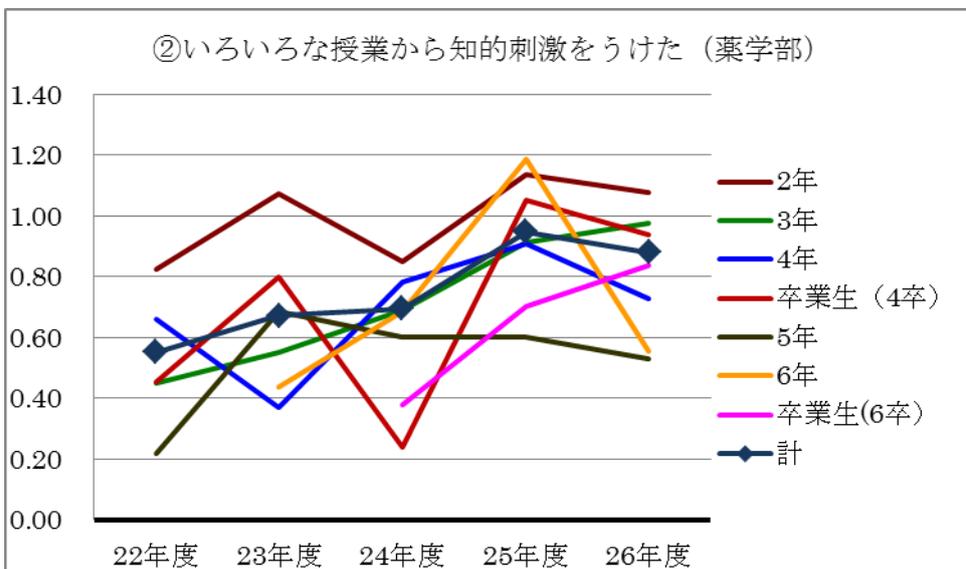
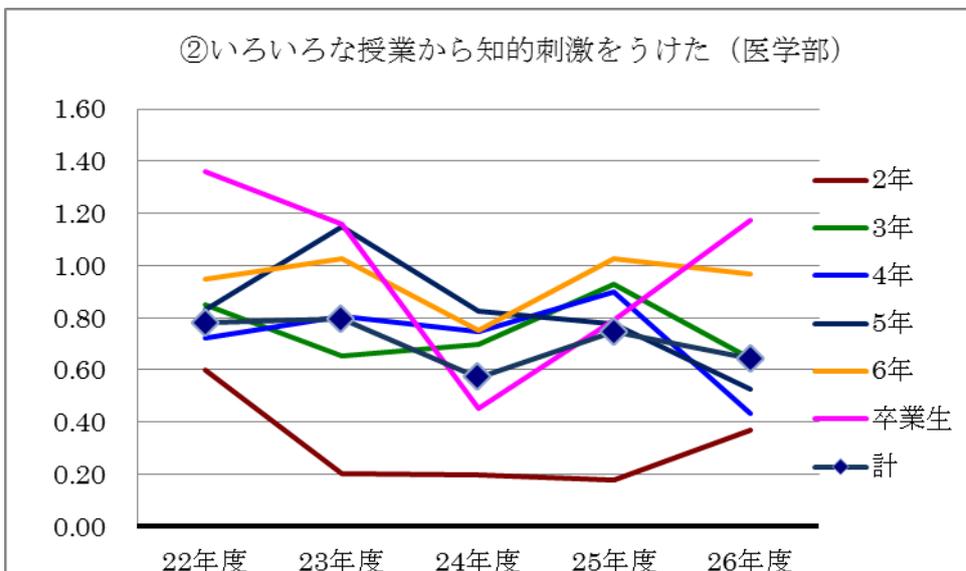
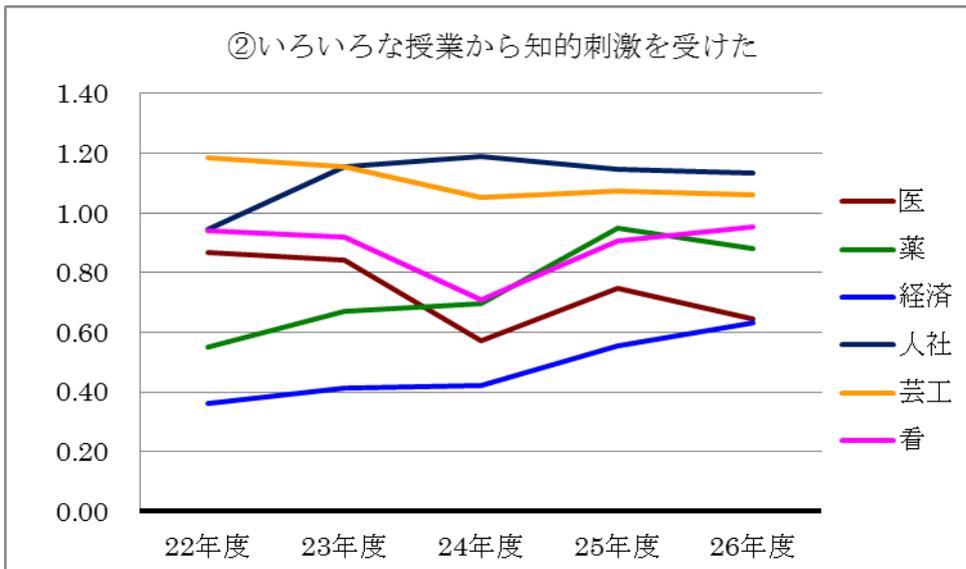
Q 1 1 授業の全体的な印象について－2 ①全体として授業を楽しむことができた



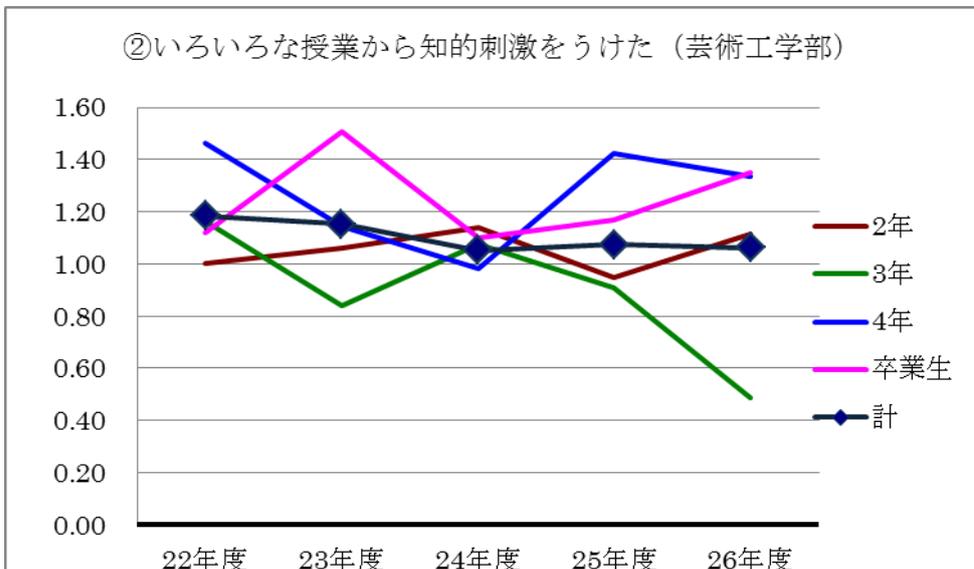
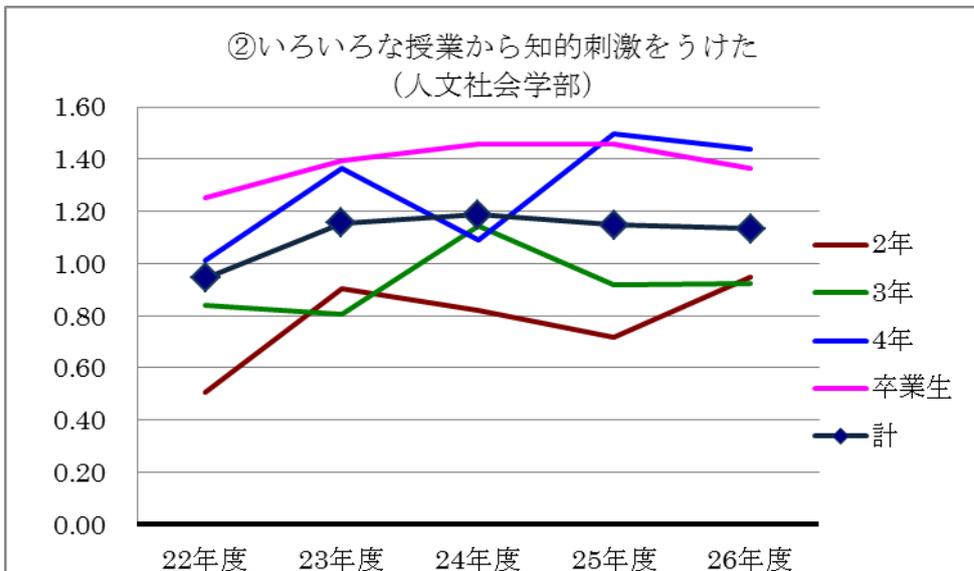
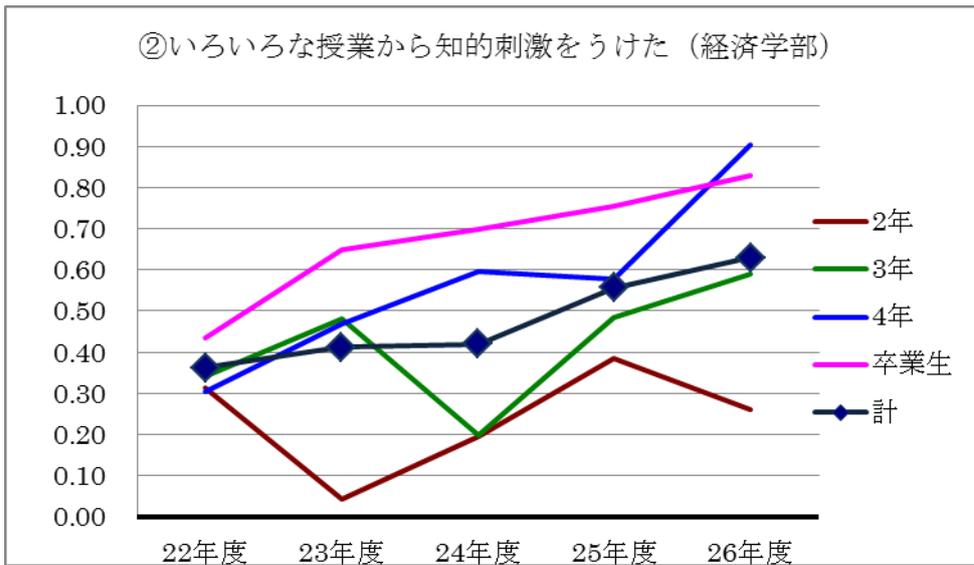
Q 1 1 授業の全体的な印象について－3 ①全体として授業を楽しむことができた



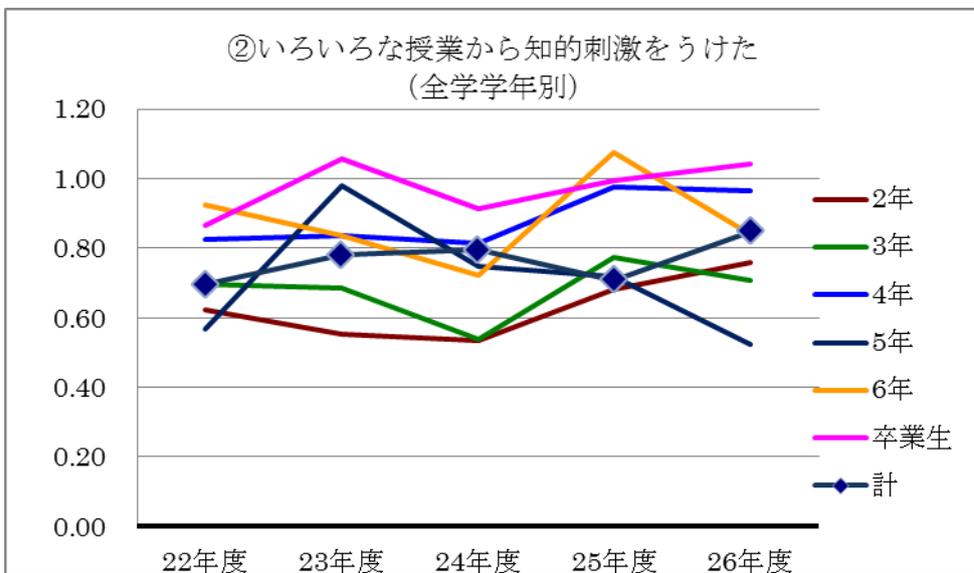
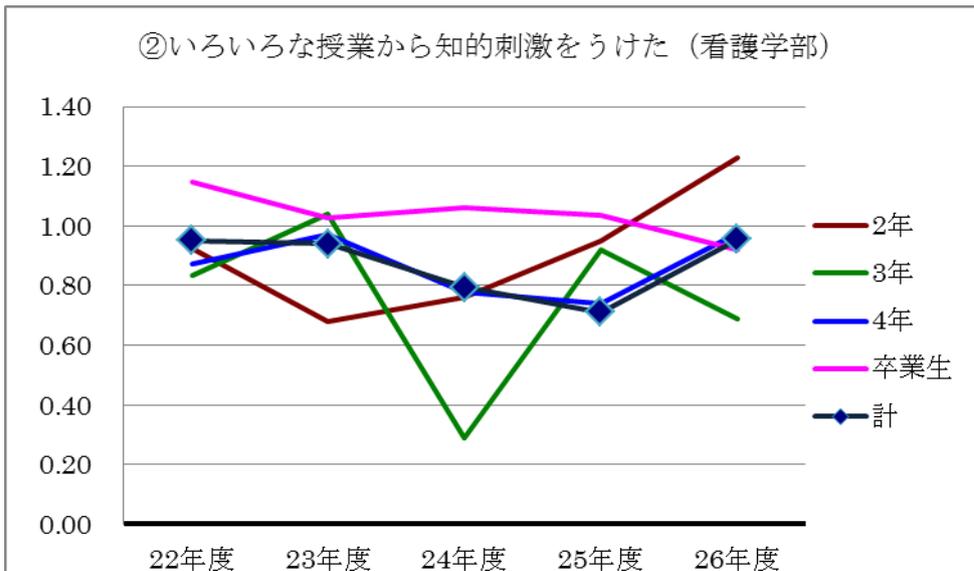
Q 1 1 授業の全体的な印象について－4 ②いろいろな授業から知的刺激を受けた



Q 1 1 授業の全体的な印象について－5 ②いろいろな授業から知的刺激を受けた

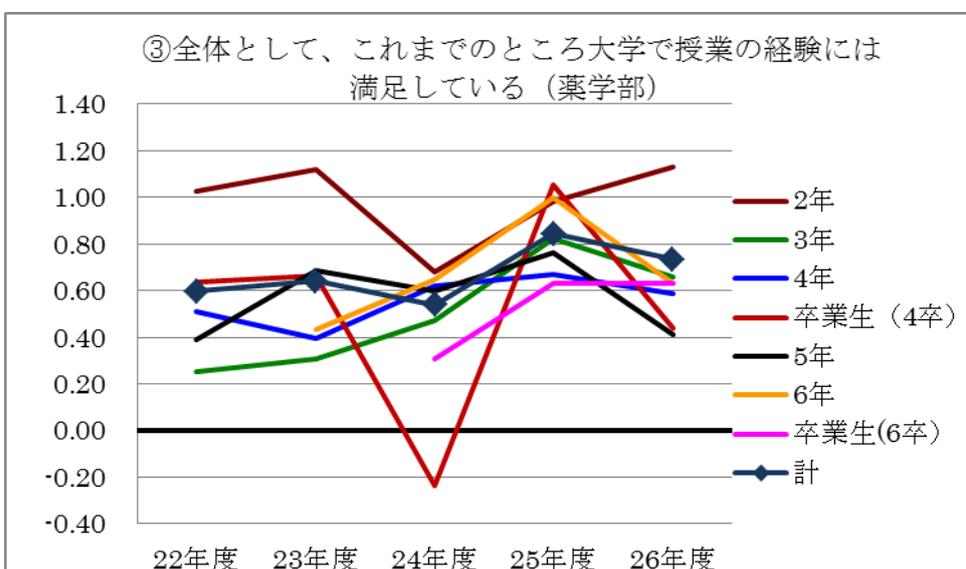
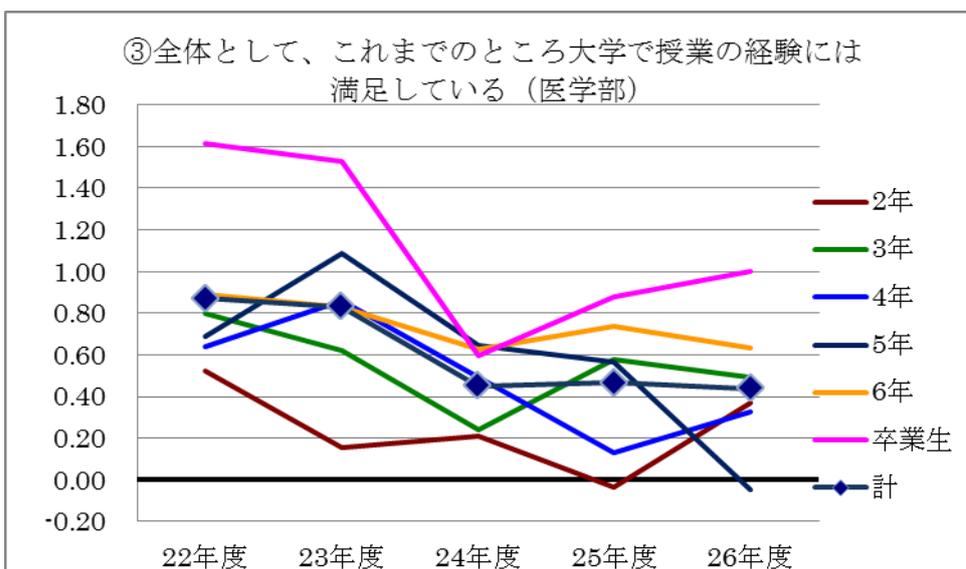
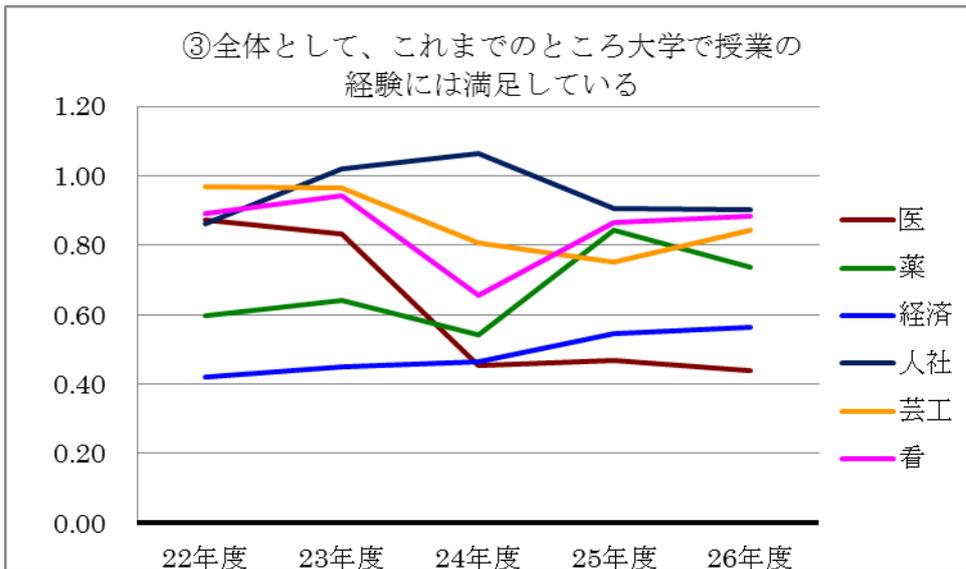


Q 1 1 授業の全体的な印象について－5 ②いろいろな授業から知的刺激を受けた



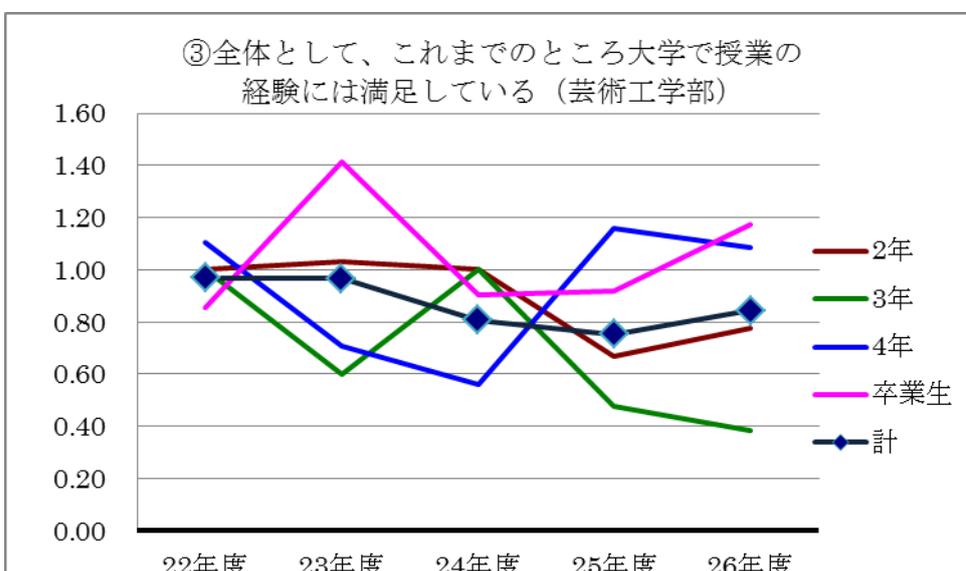
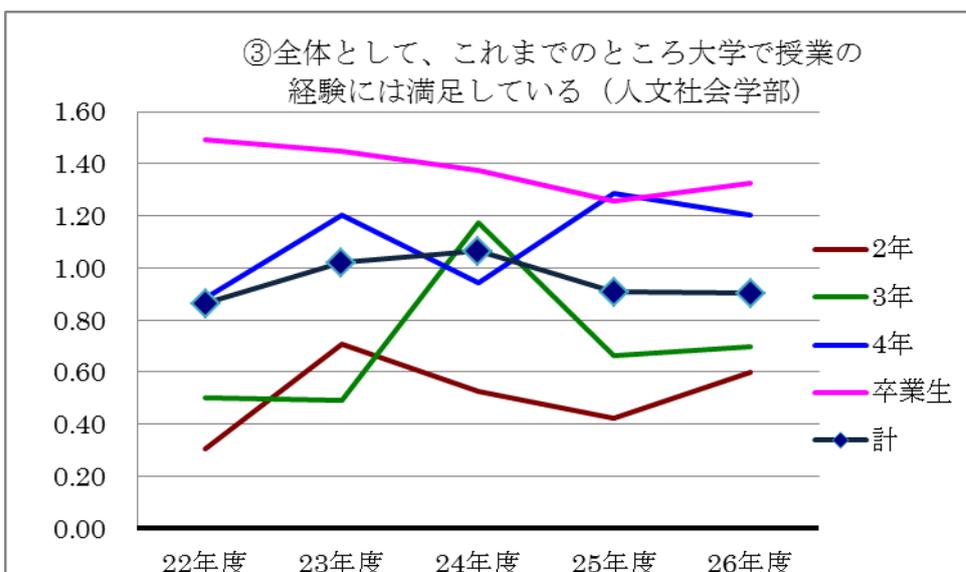
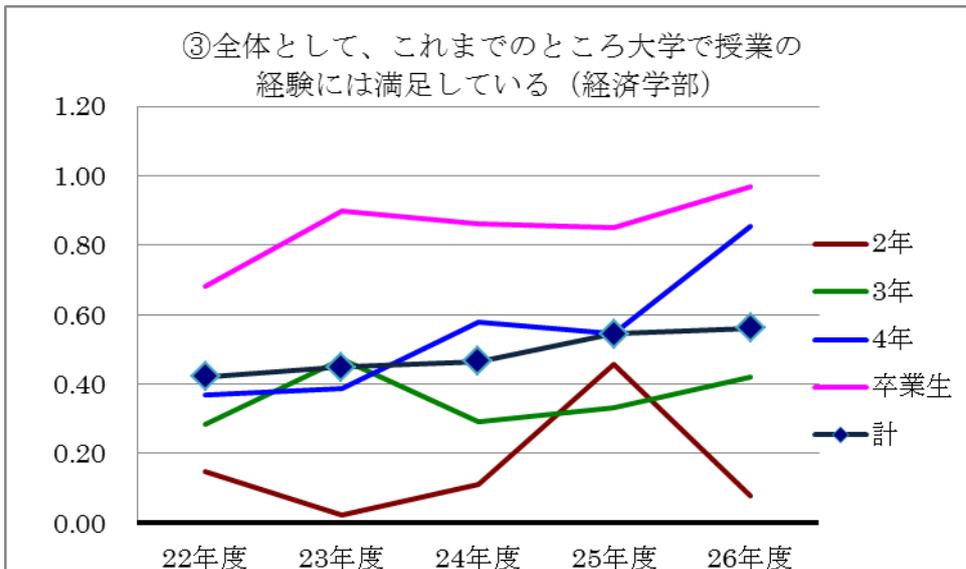
Q 1 1 授業の全体的な印象について－5

③全体としてこれまでのところ大学で授業の経験には満足している



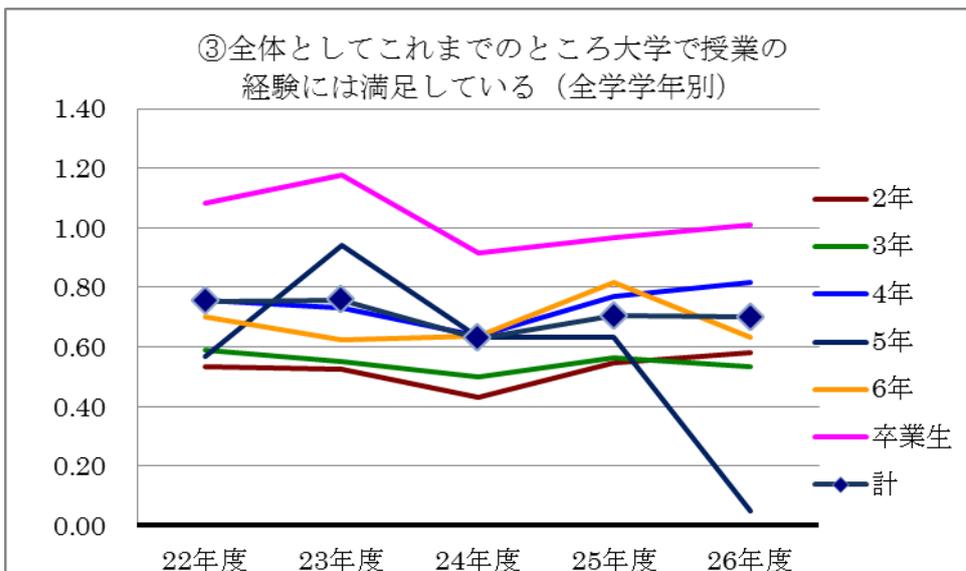
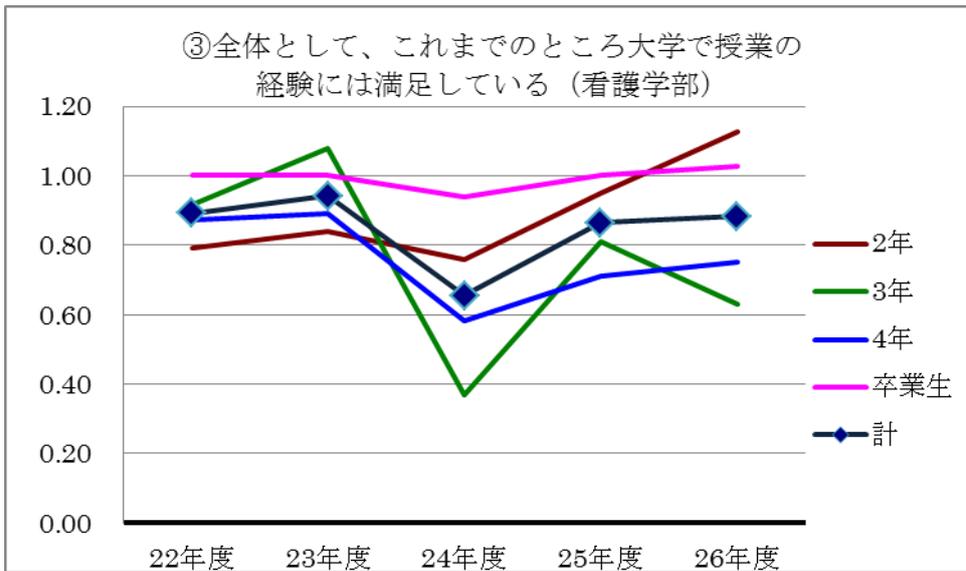
Q 1 1 授業の全体的な印象について－5

③全体としてこれまでのところ大学で授業の経験には満足している

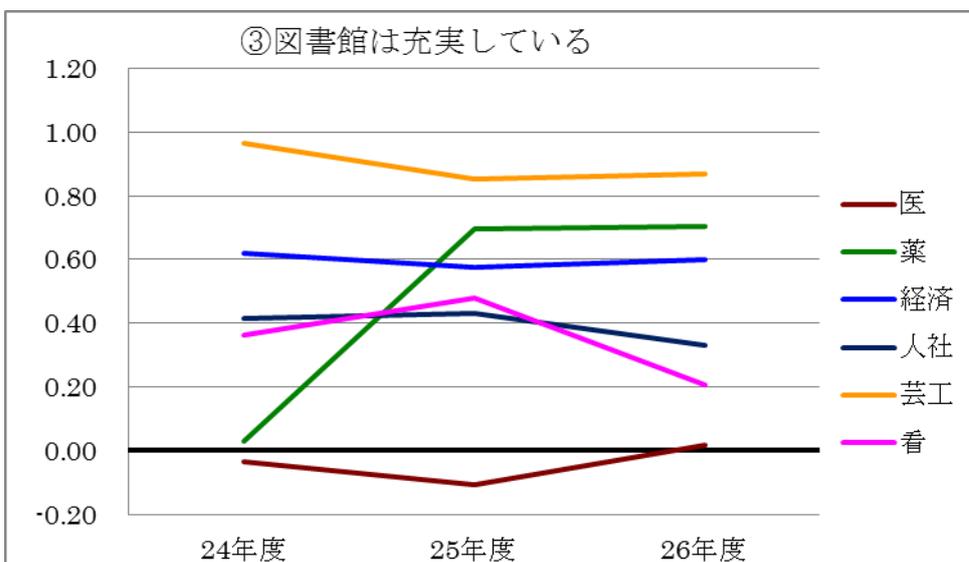
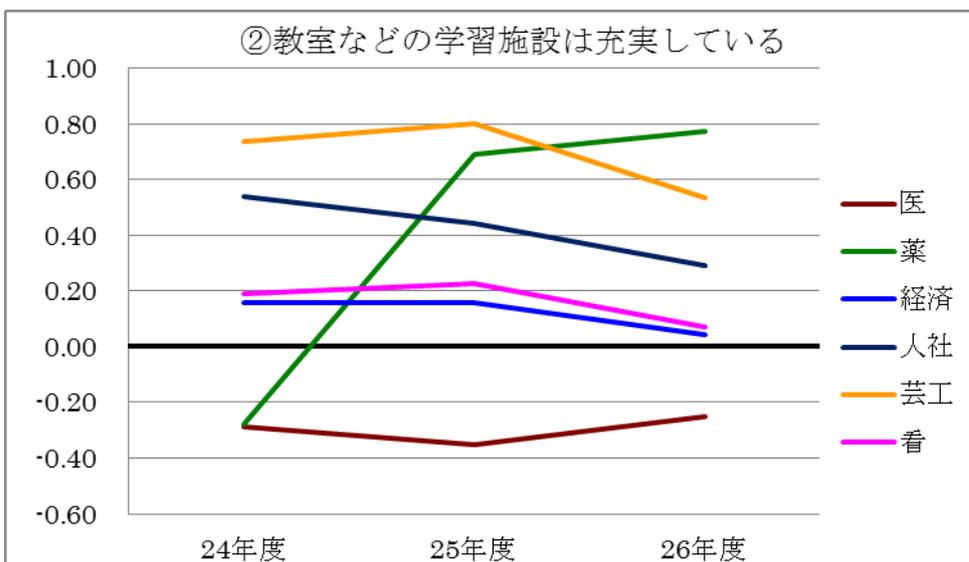
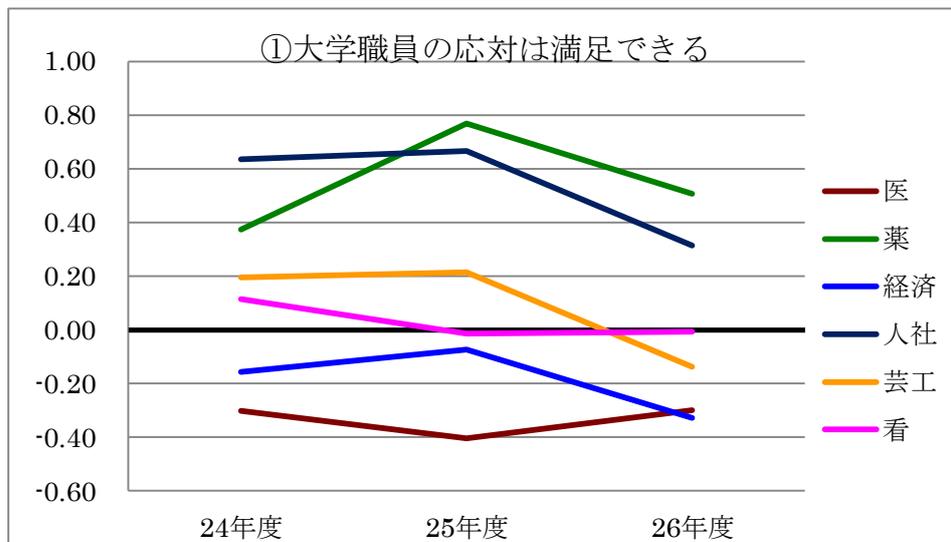


Q 1 1 授業の全体的な印象について－5

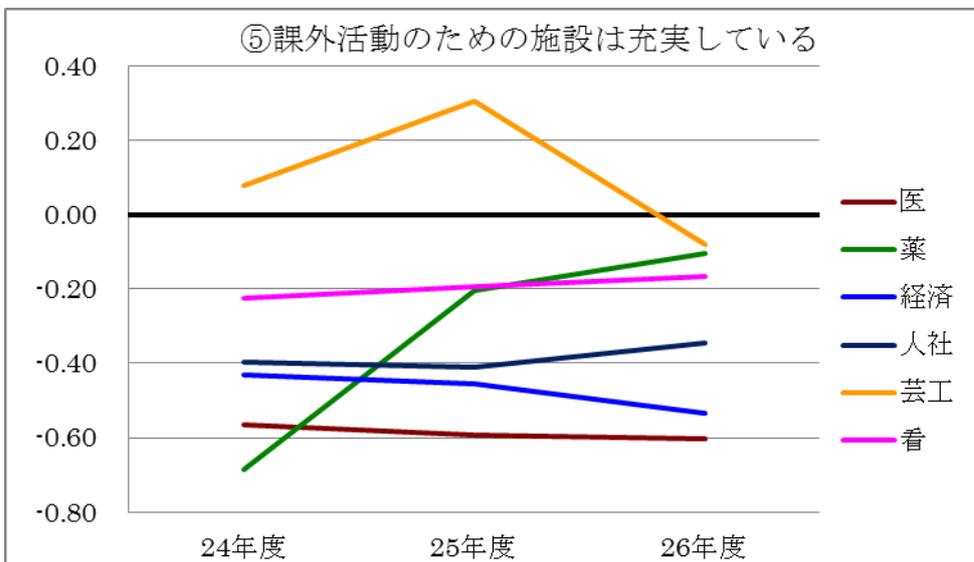
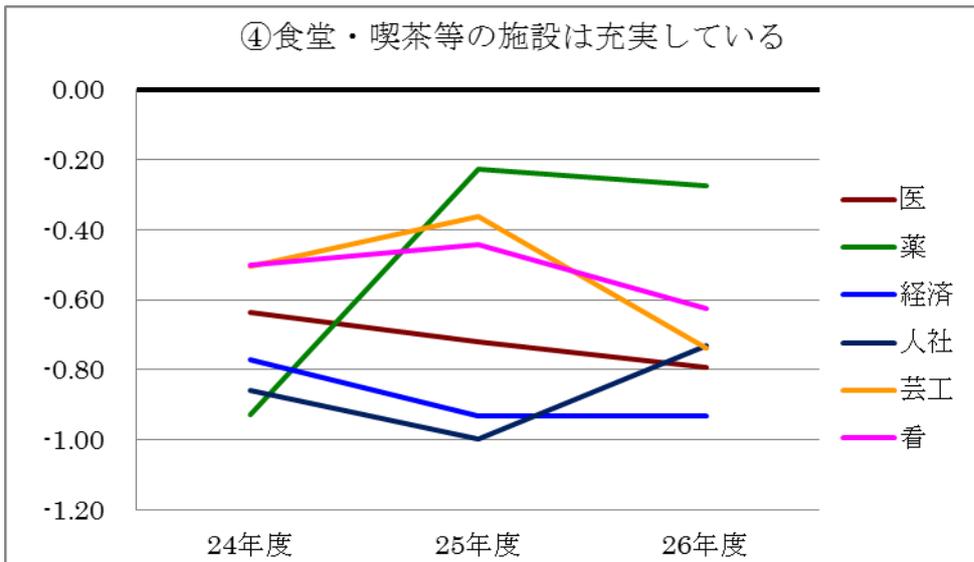
③全体としてこれまでのところ大学で授業の経験には満足している



Q 1 2 事務室・図書館や課外活動について—1



Q 1 2 事務室・図書館や課外活動について—2



～～「大学満足度調査」結果 24、25、26年度の比較～～

◆回答状況

学部／学年		調査対象者数							計	回答数	回答率
		2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	卒業生			
医学部	26年度	110	95	111	73	87	476	79	555	427	76.9%
	25年度	102	115	78	90	78	463	75	538	452	84.0%
	24年度	121	79	89	78	76	443	85	528	484	91.7%
薬学部	26年度	140	114	116	62	65	497	105	602	386	64.1%
	25年度	130	118	97	56	60	461	106	567	429	75.7%
	24年度	138	103	99	60	58	458	101	559	398	71.2%
経済学部	26年度	244	225	258			727	259	986	799	81.0%
	25年度	234	246	239			719	252	971	774	79.7%
	24年度	239	250	238			727	250	977	772	79.0%
人文社会学部	26年度	204	181	199			584	200	784	498	63.5%
	25年度	170	166	183			519	220	739	563	76.2%
	24年度	166	161	191			518	213	731	448	61.3%
芸術工学部	26年度	104	100	82			286	95	381	326	85.6%
	25年度	103	83	83			269	102	371	225	60.6%
	24年度	84	87	85			256	97	353	236	66.9%
看護学部	26年度	84	77	83			244	83	327	312	95.4%
	25年度	80	85	79			244	83	327	280	85.6%
	24年度	82	84	82			248	80	328	295	89.9%
計	26年度	886	792	849	135	152	2,814	821	3,635	2,749	75.6%
	25年度	819	813	759	146	138	2,675	838	3,513	2,723	77.5%
	24年度	830	764	784	138	134	2,650	826	3,476	2,633	75.7%

H26年回答数計(イタリックの部分)には、学部不明の1名を含む